

大麦収穫後のほ場活用

令和4年6月20日
高岡市農業協同組合
高岡農林振興センター

大麦収穫後は、大豆や園芸作物・緑肥を積極的に作付けし、水田を有効に活用しましょう！！

◇収穫後、何もしないと・・・

- ・雑草がはびこり、雑草の種が増えてしまいます。
- ・カメムシの生息地となり、近隣水田では斑点米の発生を助長します。
- ・土が露出するため、夏場の乾燥により地力が低下します。

◇せつかくの空いた農地を有効活用しましょう。



①収益性のある作物の栽培

大豆や園芸作物を作付けし、水田のフル活用を進めましょう。

*園芸作物は、女性や高齢者の雇用を作り、営農組織の新たな可能性を生み出します。

②緑肥の作付けによる地力増強

クロタリヤやソルガム等を作付けし、有機物を供給しましょう。

【ソルガムの場合】

R4. 6月補正予算「水田利用肥料価格高騰緊急事業」により、緑肥の二毛作体系に5000円以内/10aの助成を予定

播種時期	播種量	すき込み時期	すき込み方法
6月上旬 ～ 8月上旬	4～6kg/10a	出穂期頃 播種後60～70日頃	フレールモアで細断後、ロータリー等ですき込む。 *生育量が大きすぎると、回転軸に茎葉が絡みやすいので注意する。

◇作付けすることができず、やむを得ず保全管理する場合

大麦刈取後は速やかに耕起を行いましょ。その後も雑草が出穂・繁茂しないように、定期的に耕起を行いましょ。

○ご不明な点は JA 高岡 担当営農指導員 または 高岡農林振興センター 高岡班(26-8477)までお尋ねください。